

| | |
|---------|-------|
| プログラム番号 | 06036 |
|---------|-------|

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

| | | | |
|--------------|---|--------------------------------------|---|
| ①大学名 研究科名 | 京都大学大学院エネルギー科学研究科 | | |
| ②学長名 | 尾池 和夫 | | |
| ③所在地 | 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 | | |
| ④担当者 連絡先 | 所属部局・職名 | 国際部留学生課教育支援グループ | |
| | 担当者氏名 | 中村 義行 | e-mailアドレス y-nakamu@mail.adm. kyoto-u.ac.jp |
| | 電話・FAX番号 | 075-753-2489(TEL), 075-753-2562(FAX) | |
| ⑤ホームページURL | http://www.kyoto-u.ac.jp/ | | |
| ⑥大学院在学留学生数 | 1,020人(うち、国費留学生 446人) | | |

【2. プログラムの概略】

| | |
|---------------|---|
| ①プログラムの名称 | 英語によるエネルギー科学国際プログラム |
| ②プログラムの形態 | 博士後期課程(3年間) |
| ③実施研究科・専攻 | エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻 |
| | (所在地) 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 |
| ④連携大学・研究科・専攻名 | エネルギー科学研究科 エネルギー基礎科学専攻 エネルギー変換科学専攻 エネルギー応用科学専攻 |
| ⑤受入れ学生数 | 10人(うち研究留学生優先配置人数: 8人) (うち日本人学生数: 0人) |
| ⑥担当教員数 | 合計 109人(うち専任: 97人、兼任: 4人、非常勤: 8人) |
| ⑦研究科長(代表者)名 | 所属部局・職名 エネルギー科学研究科・教授 |
| | 研究科長名 八尾 健 |

【3. プログラムの内容】

■ 概要

京都大学大学院エネルギー科学研究科（以下、本研究科という）に「英語によるエネルギー科学国際プログラム」（以下、本プログラムという）を開設する。本プログラムでは、エネルギー・環境問題の解決にあたってはグローバルに捉える必要があることを鑑み、海外から優秀な留学生を募り、留学生に対して本研究科の特色である学際的なエネルギー科学教育および研究指導を英語で行う。これにより、本プログラムで受け入れた留学生を、グローバルな視野に立ってエネルギー・環境の諸問題の解決に貢献しうるエネルギー科学の国際的エキスパートとして輩出してゆく。同時に、国際性豊かな教育・研究環境の整備に加えて留学生との交流会も開催し、将来的な人的ネットワーク形成を推進させ、日本人学生に対して国際性を涵養させるとともに、その国際競争力も強化させることを目指す。本プログラムでは、学際の特長を活かして、留学生のエネルギー科学に関する視野を拡げ、さらに研究テーマ・マッチング支援システムの導入により、留学生の希望を生かし、継続的なテーマまたは新規のテーマによる研究を遂行できるよう、留学生に配慮している。

詳細については、ホームページ <http://www.energy.kyoto-u.ac.jp/doctoral/> を参照されたい。



■ 教育・指導体制

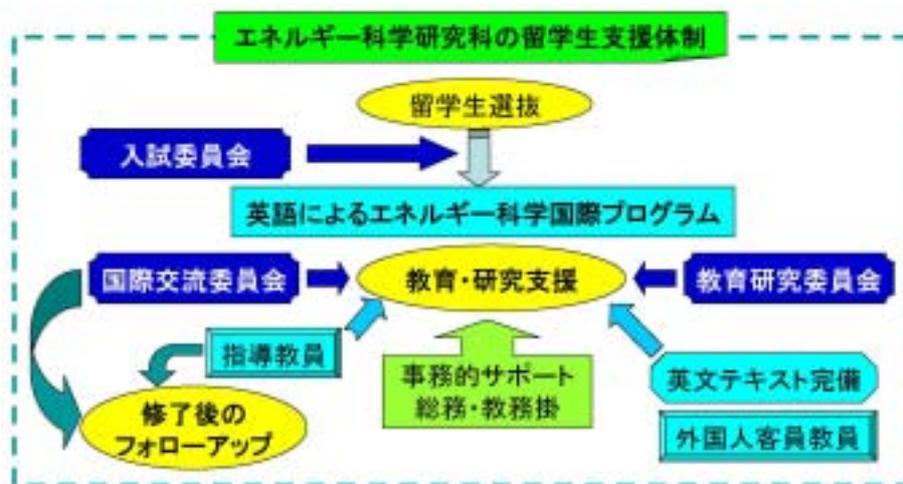
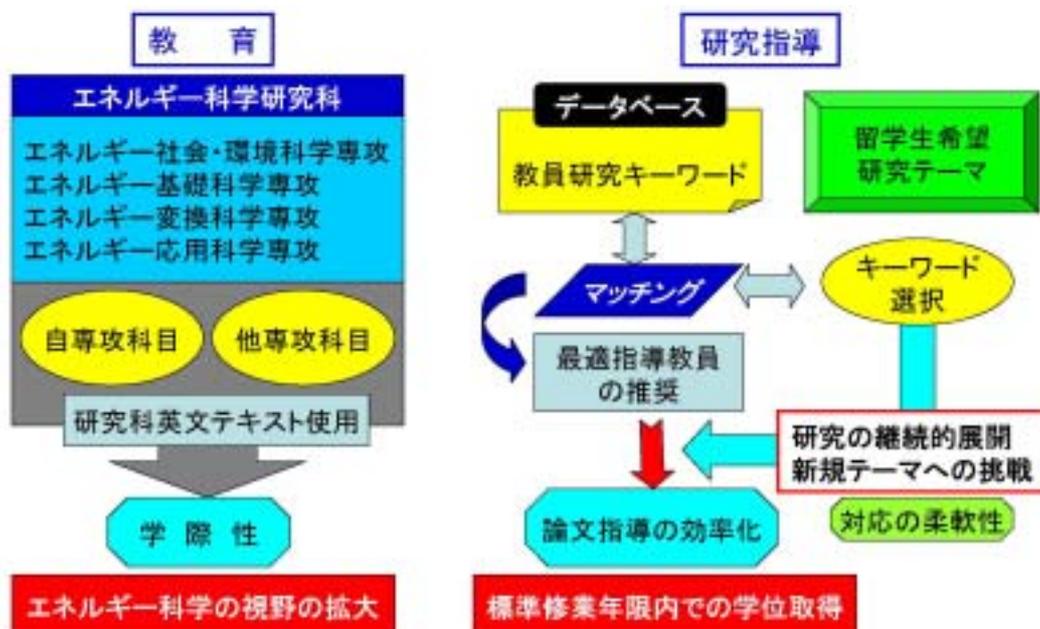
本プログラムにはいくつかの特色があるが、以下に代表的なものを列挙する。

- ・エネルギー・環境に係わる専門科目を教授するにあたっては、日本における最先端の理学、工学、農学、経済学、政策学に基づいた学際的かつ実際的なエネルギー・環境問題への取組みに力点を置いて講述し、当該研究分野の若手リーダーとして必要な知識を習得させる。
- ・本研究科における教育研究上の学際的特長を活かし、所属専攻の提供科目と他専攻の提供科目を履修することを推奨することにより、エネルギー科学に関する視野を拡げるように指導する。
- ・講義にあたっては、エネルギー科学に関する一連の英文テキスト(本研究科にて発刊済みである)を用いた授業体制を既に完備している。
- ・教員の研究キーワードデータベースを作成し、これをもとに研究テーマ・マッチング支援システムを新たに構築する。このシステムの導入により、留学生の希望に柔軟に対応でき、さらに留学後の研究指導を効率よく実施できるようにし、標準修業年限内で学位を取得可能とする。

本プログラムにおける教育研究指導の実施にあたっては、指導教員が中心となって行うのはもちろんであるが、本研究科における教育研究委員会および国際交流委員会を中心として関連委員会が

教員組織としても対応し、さらに事務処理にあたっては教務担当事務の体制が整っている。

本研究科では、これまで留学生受入経験を有し、また留学生受入業務にも習熟しており、それらの実績に立脚した留学生支援体制が整備されている。このように、本研究科においては、留学生受入に十分に配慮し、留学生が安心して教育を受け、研究できる環境作りがなされている。



■ 本プログラム修了者に期待される効果とフォローアップ体制

エネルギー科学はエネルギー・環境問題を対象分野とするものであり、本プログラム修了者はそのような学際的知識を修得した若手研究者として、国内の国立大学法人、研究機関、また海外では出身国の大学やその他の国における研究機関など、それぞれの進路先において活躍するとともに、留学生の出身地域におけるエネルギー施策に対して中心的役割を担う若手リーダーとしても大きく貢献することが期待される。

本プログラム修了後の就職先については指導教員を中心としてそのケアにあたりるとともに、本研究科国際交流委員会が修了後も連絡を密に取り、連絡先等の情報を随時更新し、データベース化を行う体制を整える。これにより、修了者の継続的フォローアップを行う。特に、海外にも拠点を有する国内企業に対して、就職担当教員および指導教員を通して留学生インターンシップの導入を要請し、民間企業への研修派遣を試みる。これにより、本プロジェクト修了後の民間企業への就職等にも有利な環境を整える。